

より良い社会の実現に向けた主体性を育む公民的分野の授業に関する一考察
～イスラエル・パレスチナ問題を題材にして～

新潟市立下山中学校
仲田真礼（平成30年度）

（主張）

問題解決を望む切実な声・姿

→ 問題解決に取り組む実践者との協力 × アクション → 持続的な主体性の育成

1 実践の背景

- ① 激化するパレスチナ情勢と生徒の声
「なんで戦争を早くやめないんですか？」
- ② 2年地理「四国新幹線の導入」実践（R4）
 - ・ JR 四国社員からの問題提起
 - ・ 現地中学生との交流→ 公民の学習にも生かしたい
(アクションも視野に探究的な学習を)

本実践では、イスラエルとパレスチナの対立を題材に、国際社会で起きている複雑な紛争と平和構築の課題について学習を進めた（別紙1）。学習指導要領では、「よりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述すること」と述べられている。現地に暮らす人々や、社会で実際に活動している人々と関わりながら、学習を進めることで、単なる知識の獲得にとどまらず、国際問題を自分自身に関わる課題として捉える意識の変化が見られ、さらに自ら情報を収集・判断し、行動へとつなげようとする持続的な主体性の育成に寄与すると考えられる。

パレスチナ情勢を自分事にして考え、自分自身の生き方にまで学びを及ぼせるためにも、3年生の12月、全ての授業内容を修了した2月末に分けて授業を実施することにした。また、本実践自体が現地の人々や実際に活動をする人々、社会へのメッセージ性のあるものになることも期待した。

2 パレスチナ問題とは

3 単元デザイン

- ・ 外部機関の助言で焦点や学習形態などを改善
- ・ 生徒の声からアクションを追加

4 実践の要点

- 【課題設定】 遠い世界の問題を「自分ごと」へ
 - ・ イスラエル、パレスチナからのメッセージ動画
- 【情報収集】 主体性と批判的思考
 - ・ 共通の問い+α個人の問い
 - ・ 自由進度学習、GT、振り返りスプレッドシート
- 【整理分析】 対話の意義、中立の立場を考える
 - ・ ロールプレイを通じて「平和」が揺らぐ
 - ・ 中立の罫（日本の関わり方は？）
- 【まとめ・表現】 行動につながる学びへ
 - ・ 「紛争が止まれば平和になるの？」
 - 平和って？そのために自分ができることって？
 - ・ アクション計画・実施

5 成果と課題

- 外部機関との連携（企画段階から）
- 現地からのメッセージによる動機づけ
- 地域に開いたアクション実施
- 現地の未来への期待と自分のとるべき行動を多面的・多角的な考察→論述
- ▲ 持続的な主体性を見取り
- ▲ 各分野でも適切なタイミングで仕掛ける
- ▲ 振り返りの共有・活用（生徒同士で）
- ▲ 他クラスの学習との均衡

6 まとめ

教育の目的は、自ら学び続け、よりよい社会のために行動できる人を育てること。実際に社会で活動する人たちと関わりながら、「知ろうとすること」「考え続けること」「小さくても行動に移そうとすること」を学んだこと自体が、平和につながる。自分自身も探究学習の一員であり続けたい。